

“つながり”を継続し、生み出す高齢者施策



【生活支援コーディネーターとして取り組む“つながり”】

	課題・資源	課題・資源から考えられる必要な“つながり”
第一層	課題：独居高齢者が増え、地域とつながりの減少 ：認知症高齢者への地域の理解不足 資源：地域団体、企業・店舗等 地域ケア会議ガイドライン・地域支え合い会 議・協議体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでにある資源の把握と周知で住民とつなげる</li> <li>・支え合い会議での情報・資源を新たな資源づくり</li> <li>・地域住民の意欲を担い手として生み出すためのつながり</li> <li>・地域住民と関係団体の学べる機会づくり</li> </ul>
第二層（ふたば）	課題：マンションや集合住宅が多いことで、表面化する高齢化や住民同士のつながりの希薄化 課題の多様化 資源：企業・店舗、居場所（サロン等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり</li> <li>・居場所（サロン）から生まれる参加者のつながり</li> <li>・地域住民の課題を解決するための企業とのつながり</li> <li>・地域の困りごとを一緒に把握し共有するための地域住民とのつながり</li> </ul>
第二層（しなの）	課題：地域が広く買い物・移動に困る 資源：地域団体・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとを相談し助け合える住民同士のつながり</li> <li>・住民の困りごとを把握するための地域住民・団体とのつながり</li> <li>・住民の困りごとを解決するための様々な資源とのつながり</li> <li>・住民の移動手段を確保するためのつながり</li> </ul>
第二層（中央東）	課題：独居高齢者の孤立・孤独 認知症高齢者の増加 資源：地域団体・商店街・企業・店舗等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民との交流、関係性作り</li> <li>・地縁団体・関係機関との連携</li> <li>・地域での見守り体制づくり</li> </ul>

【活動進捗】

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第一層（市全域）  <b>【目標】</b> 孤独にさせない地域でのつながりの構築	計画	・生活支援CN配置の目的（生活支援体制整備事業）の周知活動 ・地域資源の活動把握と継続支援 ・住民をつなぐ地域資源のマップづくり	・住民をつなぐ地域資源のマップの活用 ・孤独にさせない、楽しむための移動支援ネットワークづくり	・つながりの継続を支える人づくり ・第2層圏域でのスムーズな事業化に向けての働きかけ	・事業評価から見える継続のための課題把握 ・令和2年度～4年度に実施してきた取り組みを地域住民や地縁団体、企業等を対象に報告する場を設ける
	進捗状況及び課題	・老人福祉センター利用者延べ529人に対し、センターが休止している期間と、利用再開後の期間に利用者への電話での聞き取りや老人福祉センター利用中の聞き取りを老人福祉センター職員と行った。 →外出自粛期間中と老人福祉センター再開後の利用者の心情から外出できない期間の高齢者からの生活不安な声と再開した老人福祉センターを利用する高齢者の不安解消や生活に張りがでている違いが読み取れた。外出や目的のあることが高齢者の生活の質の向上にもつながることが再確認できた。そのことから、介護予防の視点を持ち、地域へ働きかけていく。 ・地域資源マップ（地域ささえあいMAP）づくりのため、居場所への訪問と聞き取りを行い社会福祉協議会ホームページ内のGoogleマップに掲載する承諾書を依頼した。 →コロナ禍で活動を休止や、活動内容を変更するところが多くみられた。今後も、再開に向けて新型コロナウイルス感染予防対策のアドバイスを実施し、地域資源の把握を行っていく。 ・買い物に困っている高齢者に対し、利用しやすい宅配等サービス業者一覧をリーフレットで作成するための準備を行った。 →業者への聞き取りの中で地域住民同様、新型コロナウイルス感染予防対策等の不安を持ちながらも工夫し営業する声が聞かれた。また、コロナ禍だからこそ活用できる宅配サービス事業の情報を今後も把握していく必要がある。 ・他市町の生活支援コーディネーターとの交流 →豊明市主催の生活支援コーディネーターつながりづくり研修に参加し、コロナ禍でもやれる事を実施している活動として、移動支援や買い物支援、居場所づくりなどの報告や、他部署が関係する課題については行政との連携の必要性も挙げられた。今後、行政関係部署と連携し、事業を展開するよう働きかけていく。			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
<b>第二層（ふたば）</b>  <b>【目標】</b> 企業・店舗の多さを活かし、住民同士が つながりを持ち生 活できる地域づく り	計画	・企業や店舗を対象に聞き 取りを実施 ・業種別にリストアップ。 ・サロンでの住民への聞き 取り ・地域の現況調査 （人口・世帯・年代等） ・他市町の調査	・地域住民を対象としたニ ーズ調査 ・地域団体との情報共有 ・企業と地域のマッチング ・事業の企画、検討	・モデル事業の検討、実施	・モデル事業の評価 ・評価を基にした事業の改 善や新規事業を検討、実施
	進捗状況 及び 課題	・自治会、地域力、民生委員、地区社協役員、老人クラブから聞き取りを行った。 →効果圏連区の老人クラブ（第2不老会）、水南連区の老人クラブ（あけぼの会）へ聞き取りを行った。約100名の 会員を抱えており、1人暮らし高齢者も多い。毎月、広報誌を発行し、配布する際に見守りを兼ねて訪問している とのことだった。老人クラブのつながりの中で、見守り活動がされており、地域の見守り活動として、今後担い手 として活用できると感じた。			
		・サロンでの住民への聞き取りについて →外出する機会が新型コロナウイルス感染症の影響で減少し、年金暮らしの為、喫茶店にも頻繁には行けない。サロ ンや買い物以外で外に出るきっかけがあれば教えて欲しいとの声があった。オンラインでサロンを実施している 例を伝えるとパソコンの使い方は分からないが、学ぶ意欲はあるので根気よく教えてくれる講座があれば参加し たいとのことだった。今後、オンラインサロンを開催できるようにしていくことが必要である。			
		・他市町の調査 →尾張旭市で台湾料理店「萬来館」にマイクロバスの協力をいただき買い物ツアーを実施。飲食店にも地域貢献とい う視点で働きかけているとのことだった。瀬戸市も、民間事業所の車両も活用する事業を検討できるとよい。			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（しなの）  <b>【目標】</b> 買い物・移動への困りごとを解決し、住民が社会参加できる地域づくり	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や店舗など様々な社会資源への聞き取り</li> <li>・地域活動の把握</li> <li>・他市町の調査</li> <li>・地域住民の意識調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象としたニーズ調査</li> <li>・協議体を活用した地域団体への情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体や企業等、様々な社会資源が連携した事業の検討、実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様々な団体が連携した事業の実施、評価</li> </ul>
	進捗状況及び課題	<p>・尾張東流通センター（株）にまちづくり協働課の職員と共に訪問し、尾張旭市で実施している拠点販売や買い物支援等についての聞き取りや情報交換、瀬戸市内でのモデル的な実施の可能性を探った。</p> <p>→「買い物に行けないという問題は、生活に直面していることを考えると福祉的な課題に今後なり得る。市役所と協働して会社として出来ることを協力したい。しかし、採算度外視では実施できないので、どんなニーズがあるかを知りたい」との声があった。今後は採算の合う手法について探っていく。</p> <p>・まちづくり協働課の職員と共に、東明連区の地域力組織の会長、自治会長と7月31日に地域包括支援センターが実施した地域ケア会議で上げられた買い物の課題について話し合いの機会を持った。</p> <p>→「東明連区は、買い物するところが限られている。買い物に困っている人がいるのはわかるが、実際に何に困っているのか？どのくらいいるのか？把握のためにもアンケートを実施したい。」との声が上がった。地域特性に合った支援のあり方を探る上で、アンケート調査に協力していく。</p> <p>・山口連区で1月から試験的に地域力・地区社協・まちづくりが協働で実施している住民主導の移動支援に関わりを持ち、情報収集・住民の声の聞き取り・しなの圏域での活用の検討・他市町（日進市）の事例について情報収集を行った。</p> <p>→自動車免許の返納や、夫が亡くなり独居になったことで買い物に困るようになった方など、様々な理由で買い物に困る方の現状を聞いた。アピタ瀬戸店に地区の取り組みについて説明に伺うことで、企業の協力を得られることがあった。<b>企業との協働により地域内に新しい取り組みが実施できるよう働きかけを行っていく。</b></p> <p>・品野連区でコロナ前から相談に乗っていた居場所「品野ふれあいサロン」がスタート（10月26日）し、その場で地域の集まる場所や支え合いの必要性について話をした。</p> <p>→コロナ禍の自粛で足の衰えや人との交流の機会の減少による寂しさを訴える方が多くいた。コロナに気を付けながら電話で連絡を取り合うなど、安否確認をしているとの声もあった。このような支え合い、見守りが展開できるように働きかけていく。</p>			

		活動計画（第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第二層（中央東）  <b>【目標】</b> 独居高齢者の孤立を防ぐために支えあう地域づくり	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者の実情、意見、ニーズの把握</li> <li>・地域資源の状況把握</li> <li>・居場所への訪問、調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の周知、情報共有</li> <li>・地域住民、地縁団体、関係機関との連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活躍できる担い手の発掘</li> <li>・高齢者が活躍できる場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者の孤立、早期発見、対応につなげる体制づくり</li> </ul>
	進捗状況及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協役員、民生委員、地域の居場所、地域住民等から地域の現状の把握を行った。 →参加人数の縮小、換気の徹底などの感染対策による制限をし、コロナ感染拡大の状況をみながら、事業やサロンの再開が徐々にみられたが、感染が拡大してきたことから、再度中止しているところが多くなっている。 地域の居場所づくりにおいては、新しい生活様式を取り入れた方法で再開に向けた働きかけが必要である。</li> <li>・コロナ禍で、活動ができなかった居場所（よりどころ）に聞き取りを行った。 →集まれない、会えない中、人とのコミュニケーション、しゃべること、人に接することの大切さを改めて認識した。家に居続けることで、身体機能や認知機能が低下する高齢者が多くなったと思われる。定期的集まり、体操や、おしゃべりすることで健康が保たれると考えられるため、コロナ禍でも開催できることを提案していく。</li> <li>・買い物・移動の現状把握を行った。 →古瀬戸連区では、昔あった八百屋はなくなり、スーパーはアビタかバローしかない。コミュニティバスも路線がない。医者も1件もない。買い物するにも病院へ通うにも移動手段がなく、タクシーを利用するにも、交通費にお金がかかり生活に不便を感じている。車に乗れる方はいいが高齢者で返納された方も多く、運転できる方も身体の衰えなどで他の人を乗せることにも抵抗があるという声も聞かれた。 →深川連区も商店街に近い方はいいが印所町の奥の方はバス停までも遠く、行きはバス停まで歩いても、買い物した後は荷物もありとても歩けずタクシーを利用。下肢筋力の低下で歩くことが大変になっている方も多い。 このようなことから、週1回家族の方に送迎や買い物を依頼し生協も利用するが、実際物を見て買いたいときもあるとの声もある。楽しみながら買い物を行うための移動も検討していく必要がある。</li> <li>・地域包括支援センター中央東と孤立・孤食・孤独死の現状について情報共有を行った。 →コロナ禍で孤独死が数件あったとの情報があった。自粛により外出の機会もなく、地域の交流もないために発見した時にはすでに亡くなられていたという最悪の事態が起きてしまっている。また、孤立し孤食の人も多く、一人で食べていると料理が億劫になったり、食への意欲が薄れる。簡単に食材を買いに行けず低栄養につながる結果となっていることから外出により交流のきっかけづくりを支援していく。</li> </ul>			